「令和８年度　全国学力・学習状況調査」の調査結果の概要と考察

丹波市立市島中学校

調査の概要（参照：文部科学省 HP）　（令和８年４月２２日（水）、２３日（木）実施）

調査の目的

◇義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。

◇学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。

◇そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

調査対象

国・公・私立学校の小学校第６学年、中学校第３学年　原則として全児童生徒

調査内容

①　教科に関する調査(国語、算数・数学、英語)

出題範囲は、調査する学年の前学年までに含まれる指導事項を原則とし、出題内容は、それぞれの学年・教科に関し、以下のとおりとする。(調査問題では下の２点を一体的に問うこととする。)

○身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能　等

○知識・技能を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力　等

②生活習慣や学習環境等に関する質問調査

○児童生徒に対する調査（学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査）

（例）学習に対する興味・関心、授業内容の理解度、基本的生活習慣、家庭学習の状況 など

○学校に対する調査（指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査）

（例）授業の改善に関する取組、指導方法の工夫、学校運営に関する取組、家庭・地域との連携の状況など

時間割

２２日　１校時：生徒質問調査（30 分程度）＋英語（聞くこと）(20 分程度)

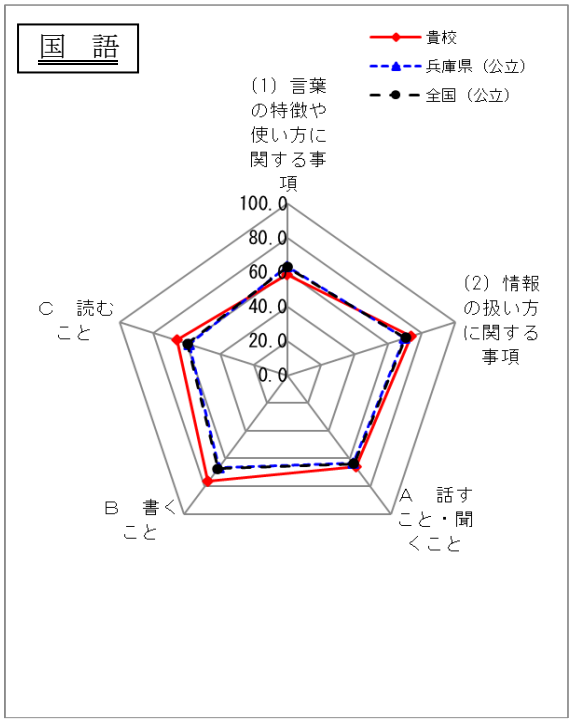
２校時：英語（読むこと・書くこと）

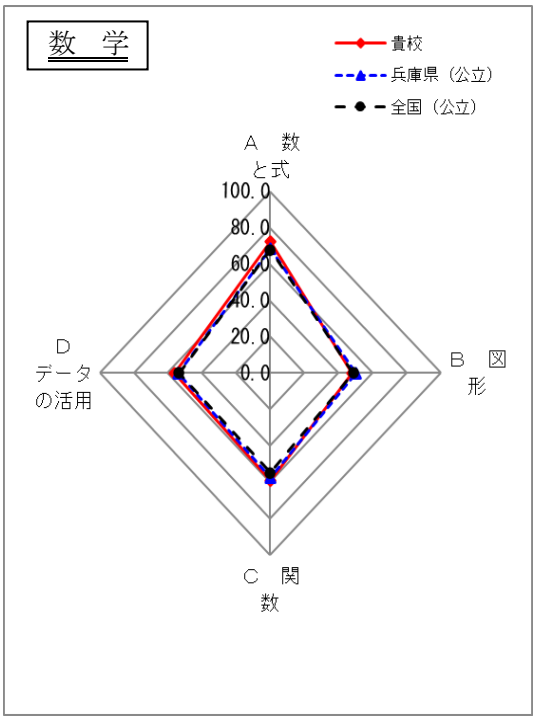
２３日　１校時：国語　２校時：数学

結果の概要

国語・数学とも全国平均と同程度　　※「同程度」とは全国平均との差異が±５％以内

学習指導要領の領域等の平均正答率の状況





見えてきた成果

【国語】
思考力・判断力・表現力を問う設問の中で、「書くこと」に関する正答率は全国平均より高い。この結果は、授業中をはじめ学級活動においても、自身の考えをペアやグループトークで友達に説明したり、意見を交流して深まった考えを書いたりする活動を継続して行ってきた成果であると考える。

【数学】
平均正答率は、領域や観点別に見てもほとんどが全国平均を上回っていた。このことから、領域や観点別においては、バランスよく指導できている。前年度は説明や証明をすることに課題がみられたが、今年度は説明や証明といった「思考・判断・表現」のすべての問題で全国平均を上回る結果となったことは、授業改善の成果であると考える。

【英語】
「聞くこと・読むこと」に関する正答率は全国平均より高い問題が多く、大きく全国平均を上回った問題も複数あった。この結果は、自分のことを英語で相手に伝えるだけでなく、相手の考えを英語でリテリングするという活動を継続して行ってきたことにより、自然と相手の言うことのポイントを押さえて理解する力や、相手に分かりやすく発話する力が身についてきた結果であると考える。

見えてくる課題

【国語】
知識・技能を問う設問の中で、言葉の特徴や使い方に関する事項の正答率は、全国平均を下回った。特に、説明したものとして適切なものを選択する問いや、同じような内容を表す別の表現を文章中から抜き出す問いで全国平均を大きく下回った。この結果から、語彙力の不足を基盤として、語句の意味理解や言葉の特徴や使い方に関する知識の定着が十分でない傾向が見られ、それらが読解や表現に影響していると考えられる。

【数学】
問題別では、確率を求める問題に課題がみられた。誤答を分析すると、いろいろな確率の求め方についての理解が定着していないことが分かる。２年生の学習時には多くの生徒が理解できていたことから、学び直しができていないことが要因であると考える。また、正答数が２問以下の生徒の割合が全国と比べても高い割合であることから、学力保障に向けた支援について、学校全体で共通理解してすすめていく必要があると考える。

【英語】
「書くこと」に関する正答率は、全国平均を下回った問題が多い。誤答を分析すると、解答で自分の考えは書けているが理由を書けていなかったり、過去形ではなく違う文法事項を用いて解答していたりする生徒が多かった。この結果から、本校生徒は条件英作文に課題があり、特に理由を伝える表現が身についていないことが分かった。

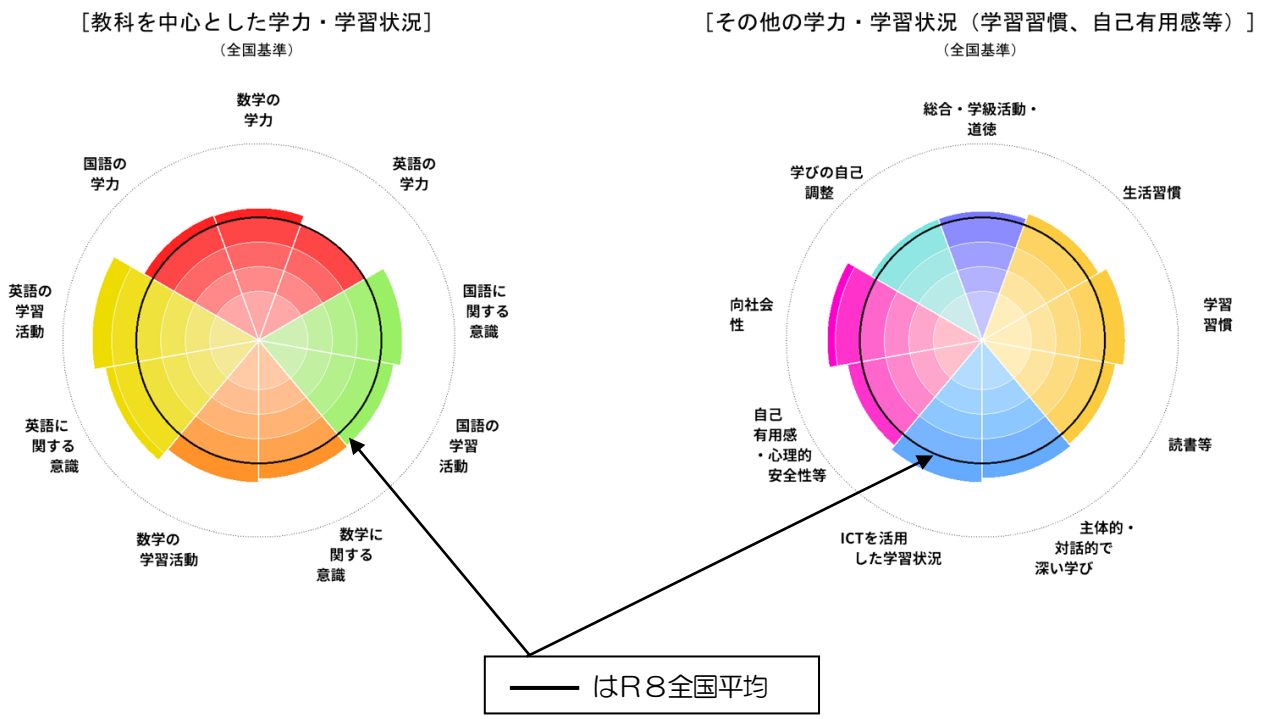
今後の方策

全国学力・学習状況調査の結果から見えてきた成果と課題を踏まえ、２学期以降は各教科において以下のような方策により授業改善に取り組んでいく。

- 基礎学力の定着を図るために、定期的に学び直しの機会を設定する。
- 「深い学び」の実現に向けた授業づくりを行う。
- ICT を利用する機会を積極的に設定し、効果的な活用を推進する。

生徒質問紙の結果から

令和８年度全国学力・学習状況調査
全国学力・学習状況調査結果チャート
丹波市立市島中学校



【自己有用感、向社会性を問う質問】

質　問　事　項	肯定的回答	全国との差	前回との差
自分には、よいところがあると思いますか	77.2	−6.8	−3.4
先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか	94.7	3.8	1.2
困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか	82.5	10.6	−4.6
学校に行くのは楽しいと思いますか	82.4	−3	−6.3
人の役に立つ人間になりたいと思いますか	98.2	2.3	−0.2
地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか	94.8	22.5	14.2

「自分によいところがある」という思いは、前回より下がり、全国と比べても下回る結果となった。「人の役に立ちたい」や「先生はあなたの良いところを認めてくれる」「地域や社会をよくするために何かしてみたい」で全国を上回っていることからこの強みを活かし、自己価値観を育む工夫が必要である。また、「困ったときに相談できる大人がいる」と感じている生徒や、「学校に行くのが楽しい」と感じている生徒が前回より減少していることから、今後さらに相談しやすい環境や関係づくり・居場所づくりに取り組んでいく。

【学習習慣を問う質問】

質　問　事　項	1時間未満 1～2時間 2時間以上	全国との差	前回との差
学校の授業時間以外に、普段、１日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか	24.5	−13.4	−35.1
	43.9	12.4	19.7
	29.9	−0.2	15.4
学校が休みの日に、１日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか	28.1	−6.7	−9
	19.3	−3.3	−19.4
	40.4	10.5	19.5

平日１時間以上学習する生徒の割合は全国平均を上回っている。前回と比べても平日の学習時間の少ない生徒が大きく減っていることから、今後も自分で学習する内容を調整しながら計画的に学習に取り組めるよう、継続した指導を続けていく。